

A分科会
行政担当者のためのコミュニティ・スクール導入理解
～伴走支援とは何か～

令和4年12月10日（土）

埼玉県ふじみ野市立大井小学校

朝倉美由紀

説明の内容

はじめに

こども・学校・地域の今日的課題とCSの意義

ふじみ野市におけるCSの導入経緯

行政としての導入までの準備

導入後の伴走支援

今後の展望と課題

CSと地域学校協働活動の未来



ふじみ野市PR大使「ふじみん」

こどもの実状と課題

実体験の減少

仮想空間での関わりの増加

現実のコミュニケーションの減少

大人や社会との関わりの減少

課題解決する問題の多様化

若者の貧困

家庭環境の多様化

現実社会での豊かな
体験

学校の実状と課題

予測困難な時代を生きぬく力の育成

人生100年時代をよりよく生きる力の育成

多様な価値観の中、多様な学力の育成

あふれる情報の中から真贋を見極める力の育成

個に応じた指導の充実

教員の志望者の激減

教員の働き方改革

求められる教育の多様化

地域の実状と課題

急激な人口減少

自治組織の組織率の低下

大人社会でのコミュニケーションの低下

社会の中での自己実現の低下

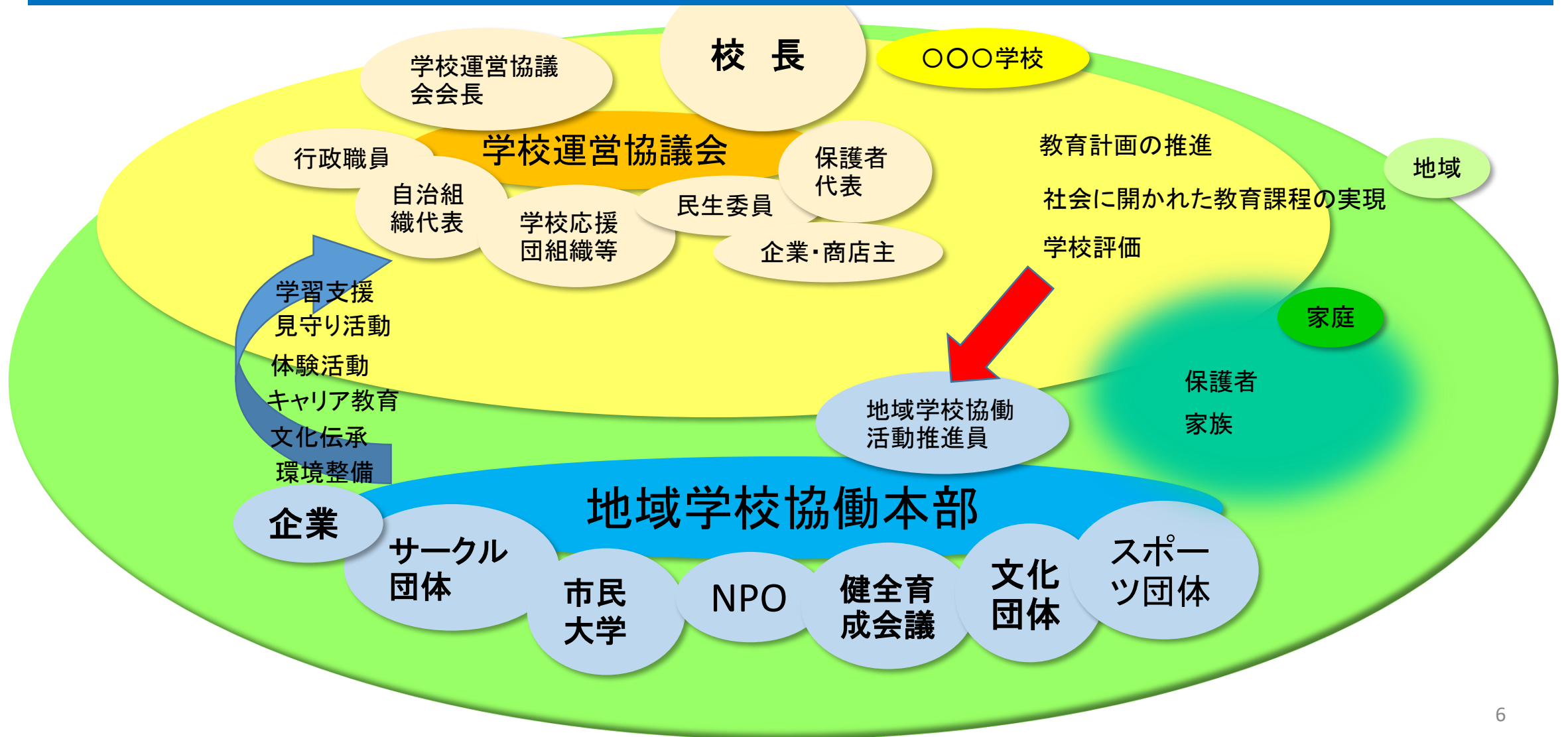
地域への愛着・思いの減少

防災を担う意識の減少

地域社会での自己有用感
学びや経験のアウトプット

こども・学校・地域の今日的課題とCSの意義

CSと地域学校協働活動の一体的推進



こども・学校・地域の今日的課題とCSの意義

地域とともにある学校づくり

学校での学びが社会と
どのようにつながっているのか
実経験を得る

キャリア教育
仕事への思いや
自分の役割に対する考えを知る

多様な生きる力 生涯学び続けるロールモデル

地域の願いや期待を
人との関わりから知る機会

学校を支える人との
関わりから
相手を思いやる心
情が深まる

様々な人との出会いから
の学び
これからの時代を
生き抜く力を身につける

こども・学校・地域の今日的課題とCSの意義

学校を核とした地域づくり

自分の得意分野を生かす場がある

学校に協力することも
居場所・生きがいになる

**地域の方の自己有用感
人と人とのつながり**

子供との関わりを通して
地域の方が関わる

ともに教育を考える
ともに地域に育つ子供を考える
ともに地域を考える

子供が活動を通して
地域の方の顔を知る

こども・学校・地域の今日的課題とCSの意義

学校と地域がパートナーとなる仕組みづくり

子供たちが夢や希望を持って
いきいきと生活してほしい

大人にとってもやりがいのある
地域でありたい

学校を中心に
人がつながる
地域がつながる

大人も、子供も
ともに育ち合いたい

大人が子供を見守り大切に思っ
ていることを子供に伝えたい

地域の子供を地域の力で
大切に育てたい

こども・学校・地域の今日的課題とCSの意義

学校を人と人とのつながりの拠点に

地域の方が集まる仕組み

共に教育を考える仕組み

地域の活動を
活かす場所

学校教育の今を
理解する

学校の
活動を支える
取組

関わる方の
自己有用感

地域の方の得意
分野を活かす場所

それぞれの立場で
子供の育ちを考える

子供は地域の未来人 地域の子供を地域が育てる

ふじみ野市におけるCS導入の経緯

導入検討時の背景

平成20年度より埼玉県が進める学校地域協働活動の推進

平成20, 21年度「学校応援団活動」のモデル指定(さぎの森小)

平成25年度「学校応援団」の取組の組織化(上野台小)

平成27年度委嘱研究「地域とともにある学校の在り方」(上野台小)

学校応援団の基本的な考え方 「できる人が、できる時に、できることを」

平成25年度より公団住宅の再開発

子育て人口の急増

新住民と旧住民との新たなコミュニティづくり

平成27年度 教育振興基本計画の策定会議

教育長の強い思い

ふじみ野市におけるCS導入の経緯

学校支援地域本部(学校応援団)と地域学校協働活動との違い

	学校支援地域本部(学校応援団活動)	地域学校協働活動(本部)
時期	平成20年度 文部科学省	平成27年12月 中央教育審議会答申
目的	地域住民等の協力により、授業の補助や部活動支援、学校の環境整備等、学校を支援する体制とする	幅広い地域住民の参画により、地域学校協働活動を推進する新たな体制とする
仕組	学校の教育活動を学校の求めに応じて地域が支援する仕組	地域と学校双方向の「連携・協働」する仕組
特性	個別の活動	ネットワーク化した活動
方向性	地域とともに歩む学校づくり 学校支援体制の確立 地域の方の活動の場の確保	地域とともにある学校への転換 子供も大人も学び合い育ち合う教育体制 学校を核とした地域づくり

ふじみ野市におけるCS導入の経緯

学校評議員制度と学校運営協議会制度との違い

	学校評議員制度	学校運営協議会制度
根拠	学校教育法施行規則 第49条	地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5
目的	開かれた学校づくりを推進するため、保護者、地域住民の意向を反映しその協力を得るとともに学校としての責任を果たす。	保護者や地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させよりよい教育の実現に取り組む。
位置付け	校長が必要に応じて学校運営に関して保護者や地域の方の意見を聞く。 個人としての立場での意見を述べるもので、校長や教育委員会の学校運営に関して直接関与したり、拘束力のある決定をするものではない。	学校運営について、一定の範囲で法的な効果をもつ意思決定を行う合議制の機関。 校長は学校運営協議会が承認する基本的な方針に則って学校運営を実施する。
役割	学校評議員は、校長の求めに応じて、または、必要と認めるときは学校運営に関する意見を述べるができる。	<ul style="list-style-type: none">・校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること・学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができる。・教職員の任用について、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。

ふじみ野市におけるCS導入の経緯

28年度

- 準備期
- 市長部局との調整、予算の確保、検討会議の発足、視察

29年度

- モデル校準備期（市報①）
- モデル校への具体的支援、教職員全員研修会、視察研修、説明会

30年度

- モデル校発信期（市報②）
- モデル校の体制強化、全校導入への研修の充実、情報発信

ふじみ野市におけるCS導入の経緯

31年度
令和元年度

- 全小学校立ち上げ期（市報③）
- 推進会議の発足、学校運営協議会の伴奏支援

令和
2年度

- 全中学校立ち上げ期
- 中学校区での学校運営協議会の検討

令和
3年度

- 地域学校協働活動準備期（社会教育課）
- 地域コーディネーターのモデル提示、令和4年度の準備

ふじみ野市におけるCS導入の経緯

令和
4
年度

- ・地域学校協働活動始動期
地域学校協働活動研修会の開催
地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)研修会
社会教育委員会議における研修会
- ・モデル事業
大井中学校区の小中学校の指定
(大井小学校、東原小学校、東台小学校)
- ・学校運営協議会ステップアップ期
学校運営協議会への指導主事派遣
社会教育課との情報共有
新たな課題に向けた委員、管理職研修会

行政としての導入までの準備

国の方向性・具体的方策を知る

中央教育審議会答申

コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議（最終まとめ）

地域とともにある学校づくりフォーラム

全国コミュニティ・スクール連絡協議会研究大会

令和〇年度文部科学省概算要求

行政としての導入までの準備

教育委員会担当者がCSを語れるか。

先進地域・校の視察

研修会への参加

関連する研究大会等への参加

関連する事業や取組の実際を視察

コミュニティ・スクールの仕組みを必要とする理由は何か。

行政としての導入までの準備

予算確保

市長部局との協働による継続的な予算確保

文部科学省による自治体向け補助事業

文部科学省による委託事業

都道府県教育局等による予算措置

文部科学省概算要求説明会

予算を知り、精査

必要な事業の申請準備

行政としての導入までの準備

周知する～説明会の開催、広報の特集～

関係団体への説明

（自治組織連合会、市PTA連合会、民生・児童委員、育成会議等）

地域への説明

（学校区ごとの地域・保護者、自治会長、学校公開日の公開講座）

教職員等への説明

（管理職、教職員、地域協力者等）

広報での進捗状況に応じた特集記事の掲載

（平成29年10月、平成31年4月、令和2年1月・・・）

行政としての導入までの準備

人を育てる～研修会の開催～

教職員全員研修会

（講師による研修、モデル校関係者によるシンポジウム）

管理職研修

（学校運営協議会委員の推薦、事例から学ぶ）

学校運営協議会会長等研修会

（学校運営協議会委員対象のグループワーク、模擬体験等）

モデル校教職員・関係者研修会・視察

（先進校の学校運営協議会の視察）

行政としての導入までの準備

検討会議等の設置

コミュニティ・スクール検討会議

(例 市長部局関係課長、市P連会長、校長会代表、学識経験者、事務局)

コミュニティ・スクール推進会議

(例 モデル校関係者を加えた上記会議の発展型)

コミュニティ・スクール連絡協議会

(例 コミュニティ・スクール設置校学校運営協議会代表者、
推進会議の発展型)

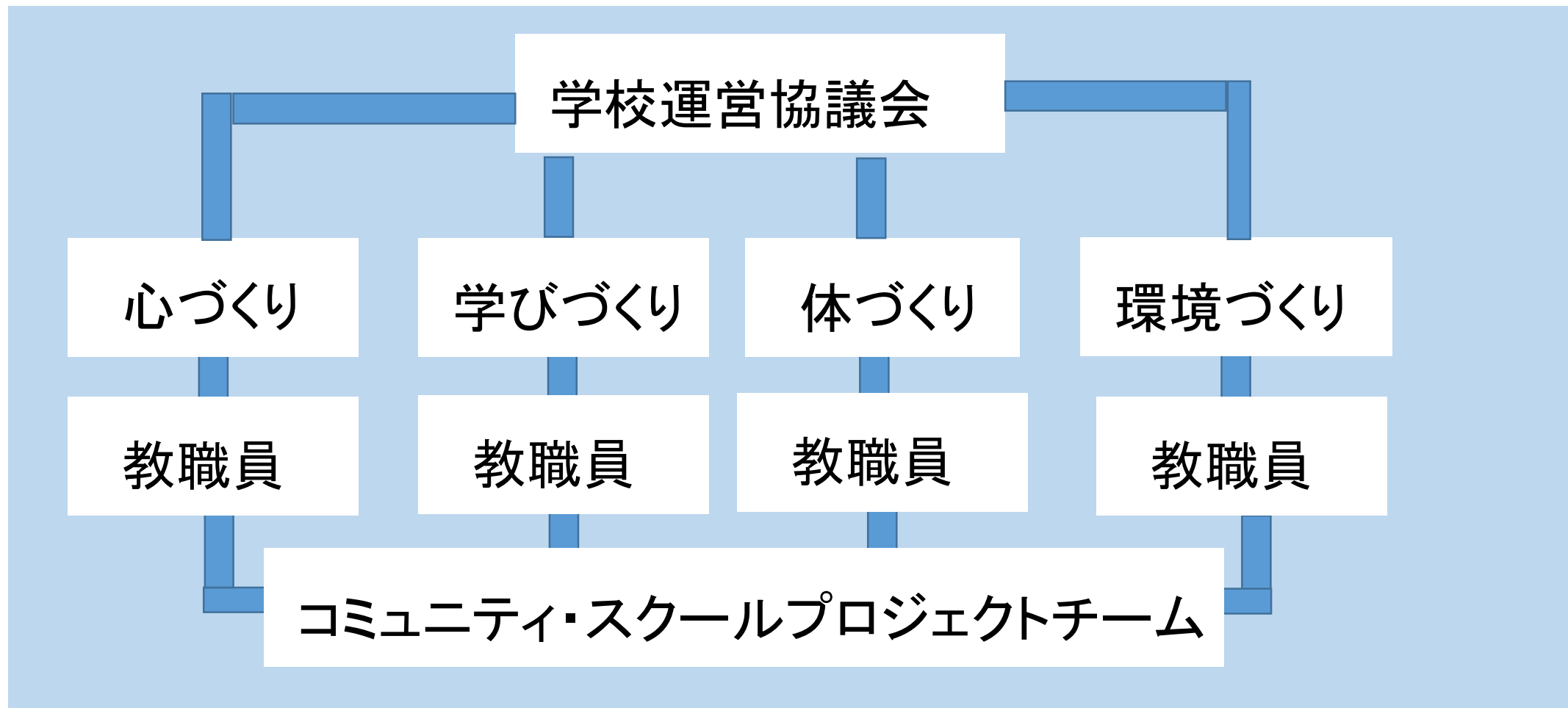
導入後の伴走支援

導入間もない学校運営協議会の課題

- 学校評議員制度との違いがわからない。⇒説明、研修
- 学校運営協議会で何をしたらいいかわからない。⇒体制を変換
- 学校運営協議会で熟議といっても題材はどうしたらいいのか。⇒PT
- 学校のことがよくわからないので、意見を言いにくい。⇒知る機会
- 熟議をした結果、だれがどのように実行するのか。⇒説明、研修

導入後の伴走支援（例）

つながり、循環するシステムづくり



導入後の伴走支援（例）

行事を行うこと＝CSではない。

- 地域コーディネーターと学年教員との打ち合わせ
- 教育課程に関わって
- 安全マップのバージョンアップ ⇒ 地域との交流、教育活動に活用
- PTA組織の改編
- あいさつ運動の拡大
- 業前運動、○○検定の補助
- 地域協力者が市民大学等の講座で連携
- 市民大学講座と学校教育活動の連携

導入後の伴走支援

ステージに応じた支援

ステージに応じた研修会の開催

その校の課題に応じた研修会の開催

導入校の情報共有の機会の設置（連絡協議会等）

最新情報の提供

新たな事業に対応した予算措置

市長部局からの人財バンクの紹介

各校の個別相談・解決

文部科学省による伴走支援体制事業の活用

今後の展望と課題

コミュニティ・スクールで何が変わるのか。

校長の学校経営方針(承認)を全面的にバックアップ

ゲストティーチャーの活用を計画的に教育課程に位置づける。

「できる人ができるときに協力」⇒「目的を共有し、一緒に子供を育てる」

学校がやりたいことを地域・保護者が後押しする。

学校に関わり、地域の方がやりがいを見出す。⇒「学びの好循環」

市長部局との協働

学校を核として、人が育つ・地域が育つ・まちが育つ

途切れない学校経営

今後の展望と課題

マインドチェンジ 『当事者になる』

OK

から

Let's

への転換（話し合い型の「承認」へ）

「わかりました。」

← 承認

学校からの依頼 ⇒ 「牛乳パックを集めてください。」



「わかりました。じゃあ、牛乳パックを集めたらどうでしょう。」

「回覧板で町会に働きかけましょうか。ご意見はいかがですか。」

← 主体性を持った承認

今後の展望と課題

CSを支える継続した取組

市教委による継続的な研修・支援

市内・先進地域の情報共有の機会

地域コーディネーターの位置づけ、活用

校内組織と学校運営協議会組織の再構築（組織を増やさない。）

委員が課題を知る仕組みづくり

管理職・教職員が代わっても取組の共有が持続する仕組みづくり

市教委による伴走支援
循環する校内組織体制

今後の展望と課題

地域人財の発掘

学校からの情報発信

- 学校応援団だより、CSだより等の地域発信
- 学校運営協議会委員からの地域への発信
- 学校の教育活動の発信

市民大学・公民館大学との協働

- 地域協力者が市民大学等の講座で連携
- 市民大学講座と学校教育活動の連携

地域の方に
知ってもらう

市長部局との
協働

CSと地域学校協働活動の未来

一体的推進で得られる3つの効果

社会総がかりで子供を育てる仕組みづくり

子供が育つ、大人が育つ、地域が育つ

生涯を通じて学び関わることのモデル化

地域とともに歩む学校、学校を核とした地域づくり

